

本年度のクラブ運営方針

会長 北村公一



2011 年は例年がない寒波にはじまり中東・アフリカにおける政情不安定、そして我が国では政局の混乱や経済の低迷に加えて 3 月には東北地方太平洋沖大震災という未曾有の大震災に見舞われました。

このような状況の中でロータリアンとしてはいまなにをなすべきか。社会の移り変わりのなかでロータリー活動はいかにあるべきか。わが豊中ロータリークラブも創立 52 周年を迎え活動はいままでの延長線上ではなく変化が求められています。

2011 - 2012 年度 R I 会長カルヤン・バネルジー氏はテーマとして「心の中を見つめよう 博愛を広げるために」(Reach Within to Embrace Humanity) として強調事項として 1 . 家族、2 . 継続、3 . 変化の 3 要素を掲げられました。2660 地区では岡部泰鑑が「ハナは「見直しをすすめ新たな第一歩を」をテーマに、そして強調事項として (1) リーダーを育成しダイナミックな新クラブの結成を図るための「クラブのサポートと強化」、(2) 人道的奉仕の重点化と増加、(3) 公共イメージと認知度の向上、(4) 未来の夢計画を挙げられています。

以上の国際ロータリーおよび地区ロータリーの方針をもとにクラブの現状、地域社会の現状を勘案してわがクラブの規模に合った奉仕活動を行ってゆく所存です。まず地に着いた奉仕活動を推し進めるために会員および会員を支える家族を含めてのクラブの連帯感の醸成と奉仕活動への意思統一のための親睦に努めたいと思っています。

研修の場である例会についても、開催曜日、開催時間についても再検討しとくに若い会員の出席しやすい例会の在り方を模索するのも地区の強調事項にもあるように今年度の課題の一つです。卓話の内容の充実も大切でとくに職業卓話の奨励をいたします。

例会のほかに前年度に続いて月 2 回の「トークインさくら」を開いて例会外での研修、親睦の場を作り、それにより委員会活動の充実、強化月間の内容の充実、各奉仕活動への会員の直接的あるいは間接的関与による全員参加を求めてゆきます。

いま求められている会員の増強、クラブの若返りは焦眉の急の問題ですがただそれには積極的な勧誘活動の他に日ごろの奉仕活動が大きなカギを握っています。

ロータリークラブとはなにか、なにをしているのか、という社会の問いにロータリアンは行動で答えてゆかねばなりません。中長期戦略として地域社会にロータリーを知ってもらい、ロータリーに対する誤った一般認識を是正するために2011 - 2012年度R Iのテーマ「心の中を見つめよう 博愛を広げるために」のもとに、まず身近な環境保全、献血運動、薬物奉仕活動、交通安全活動や自殺防止活動への協力等の地域社会への奉仕、広報活動としてのHP、そして魅力的な公開卓話とフォーラムへの一般参加の呼びかけることから着手してゆきます。職業奉仕、青少年奉仕についてはこれまで当クラブで行ってきた出前授業、教育フォーラムを継続、10年来つづけている国際奉仕は地区の方針に従って大震災支援のためタイ国等へのMGは中止し国内への支援活動として継続してゆきます。国際奉仕をはじめとしてロータリー活動にはその財政的裏付けも必要です。募金に際してはR財団に対する十分な理解をもとめて会員の自発的な寄付を促してゆく所存です。

ロータリー活動は個々の会員や委員会のみで行えるのではなくお互いの協力、協調が、とくに会員減少の今日にあっては不可欠です。今年度はIMの担当も控えておりクラブの活動に会員諸氏のご協力をお願いいたします。ロータリアンとして「まず一步前進」することからはじめましょう。そして未曾有の国難に対して「不屈の精神」で奉仕をいたしましょう。